Diagnostic value of serum EBV-DNA quantification and antibody to viral capsid antigen in nasopharyngeal carcinoma patients

メタデータ	言語: eng
	出版者:
	公開日: 2017-10-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/14692

学位授与番号	甲第1716号
学位授与年月日	平成 17 年 9 月 30 日
氏　　名	近藤　悟
学位論文題目	Diagnostic value of serum EBV-DNA quantification and antibody to viral capsid antigen in nasopharyngeal carcinoma patients （上咽頭癌患者における血清ＥＢＶ　ＤＮＡ定量とウィルスカプシド抗原に対する抗体の診断的価値）
論文審査委員	主 査　教 授　市村　宏 副 査　教 授　山本 悦秀 村上 清史

内容の要旨及び審査の結果の要旨

今回我々は、上咽頭癌患者において血清中 Epstein-Barr ウィルス(EBV) DNA 量について、台湾に代表される高頻度地域と日本に代表される低頻度地域においてリアルタイム定量 PCR を用いて比較を行った。EBV DNA 量値の４１人の日本人上咽頭癌患者における中央値は５４５０コピー／ml であり、２３人の台湾人上咽頭癌患者における中央値は２１２５コピー/ml であった。両国間の患者背景に関して性、年齢、TNM 病期分類に関し有意差を認めず、また血清中 EBV-DNA 量に関しても有意差は認めなかった。日本台湾両群の上咽頭癌患者６４人の血清中 EBV-DNA 値は対象群（非ホジキンリンパ腫患者１２名、健常者２０名、上咽頭癌を除く他の頭頸部癌患者３３名）に比して有意に高値を認めた。

次に我々は１９名の再発性上咽頭癌患者（１１人日本、８人台湾）を２６人の完全寛解に至っている患者と比較した。日本台湾上咽頭癌患者に有意な血清中 EBV-DNA 量の差は認めず、また両国間の性、年齢、病期分類に関しても有意差を認めなかったが、２６名の完全緩解患者に対して有意に高値を認めた。

Receiver-Operating-Characteristic 曲線を用い、EBV-DNA 量定量の感受性及び特異性を検討したところ、カットオフポイントは６．８７コピー／ml であり感受性で０．８５５、特異性は０．８８５であった。それらを EBV ウィルスカプシド抗原と比較したところ、EBV-DNA 量定量は有意に感受性、特異性ともに高い検査であることが判明した。また血清中 EBV-DNA 量定量は再発患者に関してもカットオフ値６０．３コピー／ml、感受性０.９０９、特異性０．９２６と高い診断能を示しやはりウィルスカプシド抗原に対する抗体より優れた検査法であることが判明した。これらの結果は EBV-DNA 量定量は上咽頭癌の代表的な腫瘍マーカーとして有用であると考えられてきた Epstein Barr ウィルスカプシド抗原に対する抗体検査よりも信頼のおける腫瘍マーカーである事が示唆された。またその有用性は上咽頭癌の高頻度領域、低頻度領域どちらでも有用であり、初診時再発時ともに有用であることが判明した。

以上、本論文は上咽頭癌の診断／治療、予後判定にも有用であることを示し、腫瘍ウィルス学に貢献する価値ある論文と評価された。